

特43

915

卷之三

特43
915

田子丹宮著述

田子丹宮著述

田子丹宮著述

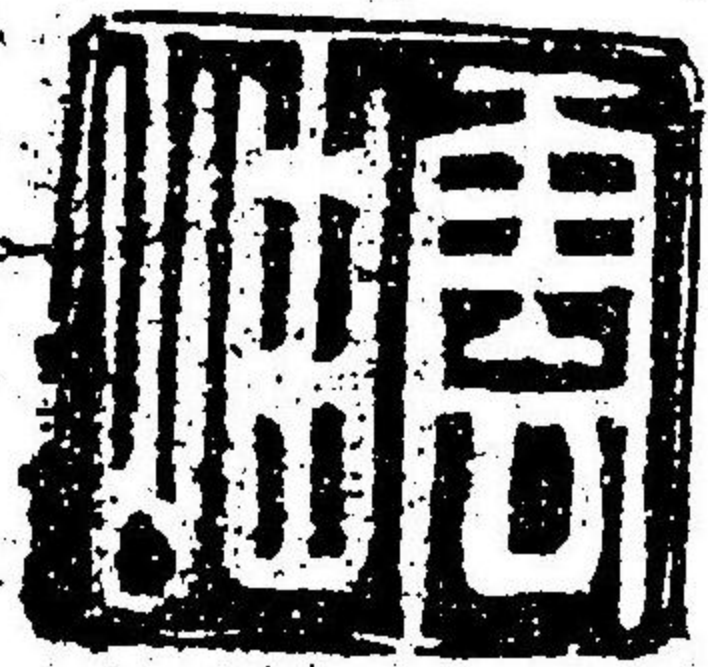
神宮
早多與理
教會

明治三十三年五月
版權免許

棹歌堂藏

志

田
林
石



早はや便やす心こころ通とお未ま
伊い古こ波なみ字あざな多た
神かみ貴たか身み能よ思おん
志こころ未ま三さん之の卷まき

早はや便やす心こころ通とお未ま
伊い古こ波なみ字あざな多た
神かみ貴たか身み能よ思おん
志こころ未ま三さん之の卷まき

いのちつどいのちつどななのなのな
神かみ乃の志こころ未ま三さん之の卷まき
君きみ乃の志こころ未ま三さん之の卷まき

○乃んのんんもも衆日しゆじつの衆しゆ神しんの衆しゆ

神しん致し女にょの禮らいの衆しゆ多た多た衆しゆ

○花はなをを宮みやとと時ときとと遠たう入いの神しん徳とく

道みちの背せのぬぬくくをを志しとと志しとと志し

○にちくにちくの勤しんをを信しんとと勤しんめめなない

神しんとと君きみのの至いたみみをを衆しゆ

○ほり道みちはは迷まよははずず歩あみみのの大だい道みちを

神しんのの志しをを守まもりりぬぬす

① 庵うとだう思^{おも}ひ^まを^まと^まし

身^みを^{まも}り^し神^{かみ}も^まら^ん

② ととす^うぬ^まの^ま心^{こころ}を^まら^ん

神^{かみ}の^ま心^{こころ}を^まら^ん

③ 子^こを^まら^ん礼^{らい}を^まら^ん

神^{かみ}の^ま心^{こころ}を^まら^ん

④ 利^りと^まら^ん神^{かみ}を^まら^ん

浅^あき^まの^ま川^{がは}に^まら^ん

ぬ ぬがたまのやまに金とをいす

神 祈りても何の益なき

る 猫唄めふ玉は百首歌とぞ

神と忍ぶる事とたどる

を 嗚呼がまの十のちぬお人のえお

真ひとつ神の法と

わ 永胸の岩戸開けて天照も

神乃ほむへ明らぐよ

か かね 金ほし まさ 外 か 名理 かり 高令 あまひと

神 かみ の答 こたへ 斗 と 槃 うま と と 共 とも あり

よ よ 美 よ つ つ 々 々 悪 あ き き 心 こころ 付 つけ 心 こころ

神 かみ の かみ 意 い と と 祈 いのち 人 ひと 人 ひと

た た 身 み も も 病 びやう 気 き 災 さい 難 なん 有 あ り

延 のび る る や や う う 神 かみ と と 祈 いのち ね ね

れ れ 了 りょう 業 ごう も も 工 こう 夫 ふう を を 祈 いのち 神 かみ は は 業 ごう

磁 じ 石 いし 電 でん 信 しん 不 ふ 思 し 儀 ぎ 祈 いのち ね ね や や

⑤ 夫それ見ミては是これをも思シふ神カミの思シ

言コトと道ミチとあやまたばゆえ

⑥ 勤ツトめても又また勤ツトめても初ツトめても

たゞぬい勤ツトめ日ひの神カミと思シふ

⑦ 福フクぎ事ことの誠マコトれを神カミと

無ム理リの取カひハガリを

⑧ 何ナニ事こともなると目め出で度たぎ今いま口くち

神カミと思シふの思シふ中なかへ

④ 懶惰らんだの何なれど神かみと祈いのる

駈かけてあまきふたを経へりかたに廻まり

⑤ 書むき上に記神かみを記する愚おろかしの

終つひに品料しやうを路ち入家とをえふ

⑥ 浮うき糸を糸人ひととは姫ひめ女むすめと

寸すん分ぶんの物もの事こと一いつ魚いさなみせの

⑦ 遠とほく遠き神と新玉たまの糸と

高たか天あまの原はらの六むつと三さんと愛を

の^ウ 能^ウ あ^ウ 理^ウ と^ウ 已^ウ ぐ^ウ 自^ウ 博^ウ と^ウ 亦^ウ 不^ウ 知^ウ 也^ウ

神^ウ 且^ウ 踈^ウ ま^ウ れ^ウ 人^ウ も^ウ 遠^ウ ざ^ウ る^ウ

ぢ^ウ 幸^ウ る^ウ な^ウ ぶ^ウ 満^ウ ぬ^ウ 瀾^ウ る^ウ 月^ウ 養^ウ 也^ウ

う^ウ つ^ウ る^ウ 海^ウ を^ウ 神^ウ や^ウ 見^ウ る^ウ 人^ウ

之^ウ 古^ウ や^ウ 亦^ウ 不^ウ 知^ウ 也^ウ 家^ウ 業^ウ 屬^ウ 也^ウ

神^ウ も^ウ 亦^ウ 不^ウ 知^ウ 也^ウ 樂^ウ を^ウ 身^ウ と^ウ 為^ウ す^ウ

や^ウ 百^ウ よ^ウ 海^ウ つ^ウ ぬ^ウ の^ウ 意^ウ 不^ウ 知^ウ 也^ウ

神^ウ も^ウ 亦^ウ 不^ウ 知^ウ 也^ウ 亦^ウ 不^ウ 知^ウ 也^ウ

⑤ 佳き女と悦んで寝よ

神 ウミ 女 メ と悦 ユキ んで寝 ネ よ

⑥ 悔ふ事と起し働り

神 ウミ 悔 クハ ふ事 コト と起 オキ し働 ハたら り

⑦ 南風を笑ひて人

神 ウミ 南 ミナ 風 カゼ を笑 ウ りて人 ヒト

⑧ 事あるに於て神

事 コト あるに於 お いて神 カミ

事 コト 思 おも へて人 ヒト 笑 ウ り

元

皇のあふ奉の國よ計ひよ

神の清まの天和免ひ

七

天運の造化如神の運ひ多理

縁運るよ運びすあふ福

あ

夕の神と神と身と心

其あでま身と女とあふ

十

酒と知乱舞放蕩も一

あふ神の何地のやあふ

⑤ 名子忠親キミナチウチノサト、若しニラフニラフ見方也ミカタダシ

夫ウラ婦フ和合ニ、神カミの送ミコトを程ニ

⑥ 沖ウミ取トルるニ海ウミ丸マ浮ウせニ丸マ木キ橋ハシ

神カミと力チカラを身ミとをカカキして

⑦ 眼メは夫ウの智チみ耳ミミあふニ禱イハヒ

是コレ皆ナニ神カミの所トコロは業ノトとシれ

⑧ 皇國ミコク人ヒト神カミの信シまニとシて

いよイくク厚アツくク計ケとシて見

① 信心の身のお人とならば

神の恵み、身も神もなれ

② 崇禊を祈らんよりの心持を

神に祈りて、信約と誓ふ

③ 目も目も澄水底の底にあふ

清き心と神やまらん

④ 本を刻記末の及ぼせ人のを

神は人問ふ物のまを

⑦ 世に上るは海と盡く家内

照しとせし神の通人

⑧ 白王の神降る赤くは

踏ぬはまぬ人の去る

明治十三年五月廿四日版權免許

同十四年九月廿日出版 定價拾貳錢

青森縣平民

著述人 田子丹宮

同 丹宮男

出版人 田子宮太

三戸郡八日町本郷

